

ISSN 0388-5569

LIBRARY
NEWS

山口大学附属図書館報

Yamaguchi University
Library Bulletin

2002.MAR

Vol.22
No.2

中国大学図書館訪問記

附属図書館運営委員（理学部） 三浦保範

山口大学の附属図書館は、現在ゴールがはっきり見えにくい、全学的な組織改革のなかでその将来像を模索しているところである。昨年末に中国大連市の4大学に訪問する機会を得たので、それらの大学の図書館の様子を報告する。中国の大学図書館といっても、大学全体の構造改革の実態が明瞭でないとその位置付けが難しい。今回、大学重点化の進んだ中国の大学を訪問する機会を得ただけでなく、山口大学客員教授として、中国の李建保清華大学重点研究室主任教授が今年1月から2月の間短期間に講演と共同研究（山口大学 VBL研究）をされた際に、詳細な中国の大学重点化の状況を知ることができたので、あわせて大学改革に関連した大学図書館というテーマで考察したい。

1. 中国の現状

中国の現状は、昨年2001年にWTOに加盟して経済の国際舞台に躍り出て、さらに2008年のオリンピック北京市初開催に向けて、人民元の値上がりで経済成長率7～8%と高く伸びている。お国柄すべて国営と思いきや、国営企業がなんと30%に減退し、民間合弁事業が大いに進み、最新のベンチャー企業が上場している。中国の大学教授の給料は、固定給（月給2,500元、約4万円）と低いが、大学教授も会社社長を兼務したりして、固定給以外に職務手当、講演や共同研究費などが入り、日本とほぼ同じ収入（2万元、約32万円）の高給料の教授が出てきている。以前からの中国の諸問題（高い失業率、宗教問題、貧富の差の拡大、頭脳流出、環境汚染、



米中関係、台湾問題、汚職など)があるが、急激な経済発展で見えにくくなっている。中国は現在バブル崩壊以前の日本の高度成長を見ているようであるが、バブル崩壊後の日本の現状をみると「根幹となる基礎教育研究の重大さ」(特に理系と図書館情報の充実)が改めて認識される。中国でもそのうち同じような崩壊現象が起こると思われるが、日本の約10倍の人口を有する中国の大学が大学改革で欧米的に重点化して柔軟に組織対応している点は、日本と大きく異なっている。その現状の要点をまとめてみる。

2. 中国の大学改革

中国全体には、1,050校の大学があったが、日本より早く1978年から重点化を進めていて、3年前には大学の統廃合が大きく進み、800校の「普通大学」と、15校の「重点大学」そして2校の「超重点大学」(人社系の北京大学と理工系の清華大学)に分かれている。大学の構造は、国全体で「重点学科」(200学科)と「重点研究室」(約70室)が得意の分野で5年間毎に選定されており、平均して1大学で1重点学科があってアピールしている。因みに、超重点大学の清華大学と北京大学はそれぞれ5重点学科を持っている。重点研究室は中国全体で150室あり、すべての分野を大学(約70室)と国立研究機関(中国科学院と軍事産業研究所、残り80室)とで分けているのが特徴である。

中国の大学改革における統廃合が進み、現在では9学院(数理、情報、材料、生物、環境、機械、建築、経済管理と人文)に大別されている。28学系に分かれるが、それらは主要な5学群(物質、エネルギー、情報、生物生命、社会科学)に属していて分かりやすい。とくに、学群は「人間の構成と活動を中心とした学問分野構成」になっている。宇宙分野は、中国の特徴で軍事的な機関が主体であるが、大学の先生が共同研究で併任できる。日本の大学は、中国の2大局化と比べてすべての分野があるが、これほど分かりやすい分野分けになっていない。宇

宙と地球分野は広く「人間的な構成と活動」のなかに入るので、日本の大学において成り立つ分かりやすい体系化である。

中国の大学では、年間約100万人の高校生の15~20%が大学または専門学校へ進学している。大学生には飛び級制度があるので、全体の15%程度の学生が早めに卒業するために、特別の指導教官をつけて対応する制度がある。また5年間で単位を取れば2学科を卒業して資格を2つ取得できたり、学部生でも大学院生と一緒に研究できるような制度上の柔軟性があるのが特徴である。

3. 大学図書館

昨年2001年12月24日から4日間、大連市にある4大学を訪問したので、前記の中国の大学改革を参考にし、図書館も大学改革に連動する分野分けと情報検索が進んでいるので、大学紹介を中心に簡単にまとめてみる。

1) 大連理工大学

(Dalian University of Technology, DUT)

1949年創立52年目の大学で、1978年国立重点大学に再指定される。大学院が1986年に設置され、1988年大連理工大学と改名し、1995年7月から国、省、市の共同支援を得て運営され、1996年に「211プロジェクト(国の教育局)」外部評価の予備審査にパスして国の特別推進の予算を獲得して、重点化して研究レベルは高くなり、全国で総合的評価で20位のレベルの大学である。2001年5月には国の「211プロジェクトの第9回5ヵ年建設計画」の適合性に合格して、同年8月には新DUT建設計画に国、省、市と共同運営を開始して、建設中の目立つ構内であった。学部の登録学生総数は25,042名で大学院生7,188名で、山口大学の3倍規模の学生と教職員数である。従来の学部と大学院名は残っていて、14大学院(School; 化学工学、環境科学など75学科)、学部32学科(Department; 応用数学、物質工学、物理学、計算科学、化学、





電子探索を備えた「図」と「書」の図書館
(遼寧師範大学[写真上・中]と東北理工大学[写真下])

環境科学など)のほかに、4国家重点分野(計算力学、微細化学技術、建築構造工学、海岸工学)と7国家211プロジェクト分野(化学工学計算、微細化学技術、海岸工学、現代建築工学、低温プラズマ物理工学ほか)と11省プロジェクト、11PDHプログラム、12特別教授奨学金プログラムで研究が成り立っている。国際交流も盛んで、海外91大学(米国、豪州、ドイツ、韓

国など)のうちに日本では大学間4大学、学部間5大学(東京大学、大阪大学、広島大学、九州大学、早稲田大学)がある。山口大学とほぼ同じ土地敷地面積であるが、NHKの「大地の子」で登場したこの大学の正門は木の茂ったそのままの雰囲気である。図書館は、寄付により維持され、蔵書は168万冊であるが、コンピューター化が進んでいる。

2) 東北財経大学

(Dongbei University of Finance and Economics, DUDE)

創立は1952年4月で50年目の大学で、遼寧省(日本の県)立大学で経済学、管理学を初め、法学、文学、理学の5学科があり、1997年3月から、中国大蔵省、遼寧省、大連市と大学が協力して、大学の建設に調印しており、将来は大連理工大学と合併の計画がある。学部の登録学生総数は10,000名、大学院生1,000名、教職員数1,600名(教授650;助教授200)で土地は狭いが、山口大学と同じ規模で、全国一の財形管理人材の養成大学(1952年より学部卒40,000名、院修了1,800名)である。なかでもMBA教育センターは全国2位(全国17校中)で、重点分野として管理学科がある。

国際交流では海外40大学、日本では、一橋大学をはじめ6大学と協定を結んでいる。建物も豪華で立派で、図書館は寄付で維持され蔵書108万冊で、コンピューター化が進んでいる。大学の高基準、国際化を目標にした「博学濟世」と、教育目標は、「知識を持つ、善良な人、仕事のできる現代人を養成する」ことには目を引いた。

3) 遼寧師範大学

(Liaoning Normal (Teachers) University, LNU)

創立は、1951年8月で50年目の遼寧省(県)立大学で、教育学を主体に、遼寧省の重点大学となっている。学部学生総数9,000名、大学院400名、300名の留学生は山口大学と同じ規模である。教育人材の養成大学(1951年より70,000名)で、中国の5師範大学のうち最上位





電子図書館

(遼寧師範大学[写真上・中]と東北財形大学[写真下])

の大学で、海外では4ヶ国と交流し、日本では福岡教育大学と大分大学との間で学生交流をしている。図書館はコンピューター化が進み、蔵書数は案内に記載されていない。寄付者の像が建ち大きな電子図書館の建物が目を引いた。この大学の特徴は、大学院には社会人教師が多く、全国教員統一試験で教師は全国を職場として勤めるのが特徴である。

4) 大連大学 (Dalian University, DU)

創立は1983年で、1987年10月に中国認可の大学(大連大学・工学院、師範学院、医学院が合併)となり、1995年現在の開発区の場所に三校合併して、大連市の私立大学を含む市立大学で10ヶ所の開放大学を持つ。学部生、教職員数は山口大学の規模と同じである。教育人材の養成大学で(1951年より70,000名卒業)。国際交流は海外12大学間で、日本では金沢大学をはじめ4大学である。図書館は蔵書71万冊で、大きな吹き抜けの建物があり、内部はコンピューター化が進み、大きなコンピューター検索室が設置されているのが特徴である。

(原稿受領 2002.2.25)



大きな図書館の1階と吹き抜けの内部 (大連大学)



「附属図書館外部評価報告書

知的情報基盤の拡充をめざして - 」 の発刊に当たって

事務部長 竹 若 重 勝

私は、小誌（山口大学附属図書館報No.62 Library News 2000年10月1日発行）において、「『個性が輝く・知的存在感のある大学図書館』を求めて - 自己点検・評価を通して - 」と題して、本学附属図書館の自己点検・評価及び外部評価を行う旨の予告をした。今、振り返って見るに、本学開学以来初の本格的な附属図書館の自己点検・評価及び外部評価を実施し、各々の報告書を刊行しようとする計画が、はたして2か年で実現可能かどうか、当初から不安な気持ちでスタートしたことを思い出す。しかし、これらの評価作業のために新たに組織された、自己点検・評価小委員会や外部評価実施委員会の先生方の熱意並びに自己点検・評価実施事務検討会等の事務サイドの職員の意欲が果てしないエネルギーとなつて、ついに我々が予想していた以上のものに仕上がったのである。

思えば、平成12年11月に、一連の点検・評価作業の基礎データを取得するための利用者アンケート調査を実施したところ、学生分（予め抽出したもの）として2,836名（84.1%）、教官分（附属図書館運営委員等を除く）として536名（55.1%）、附属図書館運営委員等として45名（60.8%）、一般市民として18名（36.0%）で、実に、3,435名に達したものとなり、大いにデータの信憑性を高め、外部評価の際にも有益な資料となった。

平成13年3月に策定した附属図書館の理念・目標は、自己点検・評価では、「附属図書館の今後の取組について」を明確化することに役立ち、外部評価では、目標に即した取組状況等の説明

がし易く、外部評価委員の先生方にとっても理解され易かったのではと思っている。

平成13年12月6日の外部評価実施のほぼ1か月前に、各外部評価委員に先の自己点検・評価報告書等の参考資料と共に「事前調査票」の用紙を送り、事前の質問・照会等を受け付けることにした。各委員から出た質問・照会等には、回答・追加資料等により対応したが、これは本番の外部評価を適切かつ円滑に進めるためであった。

外部評価当日には、さらに自己点検・評価実施以降で必要と思われた補完的資料の配付と先の事前調査結果をベ - スにして綿密な追加説明を行い、各委員にはできるかぎり現時点での的確な状況把握をしてもらおうよう努めた。言わば、大学評価・学位授与機構が行っている大学評価方法等を一部参考にしたもので、目標設定、書面調査、4段階の判定などを本学の外部評価にも取り入れた。その理由は、外部評価により客観性を持たせ、そうして、実質的にこれからの図書館運営の改革・改善に結び付けたいからであった。

外部評価実施後の年末に、各委員から「評価調査票」（判定の入ったもの）続いて平成14年1月31日に、「提言書」がそれぞれ提出された。委員の先生方には年末・年始の多忙の折、献身的に対応していただいたことにお礼を申し上げたい。

一方、先にも述べたように図書館職員も、館内に設けられた評価作業に関する委員会の先生方の指導・助言の下、職員が一丸となって評価



作業に鋭意取り組んできたと思う。私がこの評価作業を通して思ったことは、図書館職員が個々人の目標と同時に図書館組織全体の目標の設定に参加し、目標実現を目指して共に協働し合うことがいかに大切であるかということである。そうして、実施後には、自己点検評価・外部評価を受け、その評価結果を次の目標設定に活かすというサイクルを繰り返していくことにより、図書館職員の士気（モラル）を高揚させ、仕事への動機付けを与え、延いては、図書館利用者から見て、頼もしい図書館職員となるものと

思う。

このたび示された外部評価委員提言書及び評価調査票の内容は、きっと将来の本学の国立大学法人化に向けての新しい大学図書館像の道標となり、礎となるに違いない。

最後に、外部評価委員、本学委員の諸先生、並びにこの附属図書館外部評価実施に当たり、教育改善推進費（学長裁量経費）として支援いただいた学長、副学長、局長始め皆様に心からお礼を申し上げます。本当にありがとうございました。（2002.3.5記）

トピックス

山口県図書館振興大会へ参加

山口県図書館協会主催の「図書館振興県民のつどい」に参加し、大学図書館の活動をアピールしました。当日行われたシンポジウム「みんなで拓く図書館の未来」へは石井情報サービス課長がパネラーで登場、また山口県大学図書館協議会のパネル展示や各大学図書館のホームページ公開等盛りだくさんのイベントを用意して参加した市民の方々に大学図書館の活動状況を知っていただくことができました。



情報ラウンジのパソコン増設

開設以来大好評で、いつも超満員の情報ラウンジに16台を増設しました。これまでは利用者みなさんの席待ち姿が度々見受けられましたが、これで待ち時間が若干解消されるのではと期待しております。

情報ラウンジのパソコンは、インターネットや電子メール・ワープロ・表計算等に活用できるだけでなく、Linux（PC - Unix）とのマルチブート環境を用意しており、多角的に使える

ようになっております。

今後とも有効活用をお願いいたします。

県看護教育研究会研修会を開催

平成14年1月17日に、看護教員の資質向上を図るために専任教員の再教育研修会が、山口県主催・山口県看護教育研究会業務委託により医学部分館にて開催されました。参加者は17名で、当館の職員による「学外者への図書館サービス」「図書館で利用できる文献検索システムについての概要説明」及び「館内見学」が行われました。



雑誌の目次に検索機能が追加！

医学部分館において購入中の和雑誌のうち、100タイトルについて学内LANを使って目次を見ることができるサービスに、新しく検索機能



を追加しました。どうぞ、ご利用ください。



情報コンセント増設

学内ネットワークの基盤整備に伴って附属図書館内の各閲覧机に情報コンセントが増設されました。従来、本館24口・医学部分館65口・工学部分館62口だったものが、本館153口・医学部分館79口・工学部分館98口に増設されました。性能も100BaseTXに対応し、ブロードバンド時代に相応しい仕様となっております。

平成14年度からは全新入生がノートPCを持つ時代に向けての環境整備として、行われました。

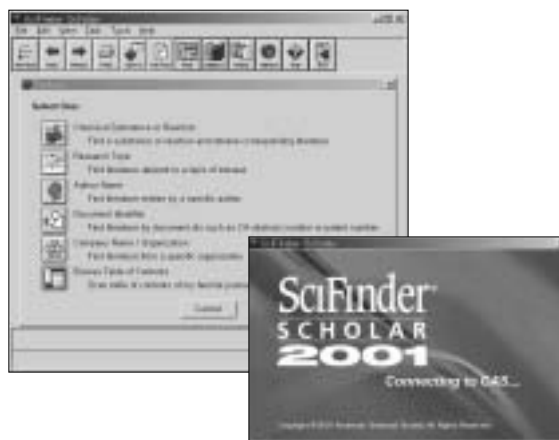
電子ジャーナルコンソーシアム参加

外国雑誌購入費が高騰している現在、冊子体での維持が予算的に困難な状況にあります。そこで、全国の国立大学が協力して電子ジャーナル・コンソーシアムを形成し、各大手出版社から出来るだけ有利な条件で電子ジャーナルを利用できるように進めています。本学では、エルゼビア・サイエンス社とシュプリング社の2種類のコンソーシアムに参加しておりますが、これにより無償ジャーナルと併せて4000誌を越える電子ジャーナルが利用できるようになりました。(詳しくは今号の小特集を参照下さい)

「SciFinder Scholar」の利用開始

従来は工学部内においてサービスしておりました「CA on CD」を、工学部・医学部・理学部の支援を頂き、ネットワーク対応のサーバ・クライアント型で検索できる本システムへの切り

替えを行ったものです。利用に際しては、研究室のPCに検索ソフトをインストールする必要がありますので、各館の担当者までご連絡下さい。



バーチャル・ロビーの設置

附属図書館3館をネットワークに接続した大型液晶ディスプレイで結んだ「バーチャル・ロビー」システムを導入しました。

このシステムは、音声と画像を双方向に伝送することができ、3館を結んだ簡易TV会議や電子掲示板として利用されています。また、学内行事の中継点としても活用され、遠く離れたキャンパス間を共有する仮想空間として期待されています。



平成13年度図書館職員研修会を開催

平成13年度の職員研修会が12月13日に、国立情報学研究所開発事業部の京藤コンテンツ課長を講師にお迎えし、「国立情報学研究所の情報サービスの動向について」と題した研修会を開催しました。県下の大学・公共図書館からも沢

山の参加を頂き、新しい図書館サービスのあり方を考えるきっかけとなる研修会でした。



シラバスDBの運用を開始しました

シラバス掲載の参考資料を網羅的に収集することを目的とした「シラバスデータベース」の



運用を開始しました。将来的には授業科目単位での検索も可能になる予定ですので、ご期待下さい。

山口県大学図書館協議会研修会開催

山口県大学図書館協議会の第2回実務者研修会が9月20日当館を会場に開催されました。当日は「ネットワークを利用した図書館サービス」の実際を山口大学での実例をもとに研修がおこなわれました。

また、総合情報処理センターの久長穰教官を講師に「ブロードバンド・ネットワークと大学図書館」と題した講演も行われ、WBTやE-Learning時代の紹介もあり、中身の濃い研修会となりました。



本学関係教官著作寄贈図書

寄 贈 者	著 者 名	書 名
・山本哲朗 (工学部)	山本哲朗著	1991年～2000年において山口県内で発生した崖崩れ調査論文集：地域土砂災害への意識高揚に向けて
・瀬 瀬 厚 (人文学部)	瀬瀬厚著	日本海軍の終戦工作：アジア太平洋戦争の再検証
・藤 島 政博 (理学部)	石川統編	生物学入門 (大学生のための基礎シリーズ；2)
・吉 村 誠 (教育学部)	吉村誠著	大伴家持と奈良朝和歌
・木 村 武史 (人文学部)	A. Kernan編；木村武史訳	人文科学に何が起きたか：アメリカの経験
・谷 光 太郎 (経済学部)	J. P. Kotter著	組織革新の理論
・谷 光 太郎 (経済学部)	谷光太郎 [ほか] 訳	パワー・イン・マネジメント
・谷 光 太郎 (経済学部)	J. P. Kotter著	パワーと影響力
・井 上 三朗 (人文学部)	吉田敦彦 [ほか] 著	神話・象徴・文学 (神話・象徴研究誌特集号；通巻2)
・小 宮 克弘 (理学部)	小宮克弘著	位相幾何入門
・猪 熊 壽 (農学部)	猪熊壽著	イヌの動物学 (アニマルサイエンス；3)
・山 本 真弓 (人文学部)	Leo E. Rose著	ブータンの政治：近代化のなかのチベット仏教王国
・山 本 真弓 (人文学部)	日本ナパール協会編	ナパールを知るための60章
・志 磨 裕彦 (理学部)	志磨裕彦著	ヘッセ幾何学
・塚 田 広人 (経済学部)	Hiroto Tsukada著	Economic globalization and the citizen's welfare state
・来 島 浩 (教育学部)	坂脇昭吉 [ほか] 編著	現代日本の社会保障 (新版)



小特集 / 電子ジャーナルとは？ コンソーシアムって何？

附属図書館では昨年来電子ジャーナル化に力を入れてきておりますが、利用者の方々から説明が不十分であるとのこと指摘等を頂くことも多く、今回電子ジャーナルについての小特集を組んでみました。同時にコンソーシアムについても取り上げてみました。(電子情報係)

電子ジャーナルとは

電子ジャーナルとは、従来紙を媒体として刊行されている雑誌を電子化し、コンピュータのディスプレイ上で読めるようにしたものです。図書館に行かなくても、研究室などのパソコンを利用しインターネットを介して出版社などのホームページに接続し、その場で雑誌の記事・論文を読むことができます。以前は、CD-ROMで提供されているものや、各大学図書館が設置したサーバに出版社から送付されたデータを蓄積し、学内に提供するといった方式のものもありましたが、現在はネットワークを介してオンラインで提供されるものが普通で、「オンライン・ジャーナル」とも呼ばれています。それ以外にもElectronic Journal、E-Journal、電子雑誌と呼ばれることもあります。

InternetおよびWWWの発達により、多くの出版社がWeb上で電子ジャーナルを提供していて、その数は現在飛躍的に増加しつづけています。

電子ジャーナルを実際に利用し本文を表示させようとすると、HTMLとかPDFという言葉を目にします。これらはファイル形式で、現在電子ジャーナルの本文の多くはこれらの形式で提供されています。HTML形式は通常のブラウザでご覧になれますが、PDF形式はAdobe社が作成したファイル形式で、ご覧になるにはAcrobat Readerという専用のソフトが必要です。このソフトはAdobe社のサイトから無料でダウンロードできるほか、コンピュータ雑誌の付録のCD-

ROMに収録されていることもあります。最新のバージョンは5.0ですので古いバージョンを利用されている方はバージョンアップをお勧めします。PDF形式の特長として、冊子体のものに近い画像が得られ、拡大・縮小が可能といったことが挙げられます。

(電子ジャーナルのメリット)

- ・学内ならどこでも、24時間利用ができること
- ・従来の冊子体の雑誌より早く記事や論文を読むことができる
- ・電子ジャーナル・システムは、そのジャーナル自体の全文検索ができるほか、それにリンクしている二次情報データベースの検索ができるものもある。
- ・電子ジャーナルの引用文献からその被引用文献をその場で利用できる。



全文表示画面 (PDF形式)

コンソーシアム (consortium) とは

コンソーシアムとは、複数の図書館が共同して電子情報（特に電子ジャーナル）の購入・利用契約を出版元やデータベース業者と結んで運用しているものです。

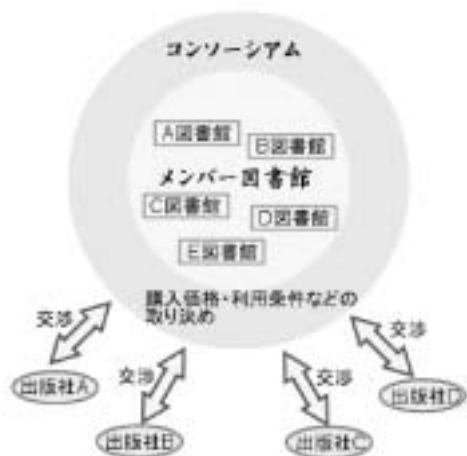
電子ジャーナルは、当初冊子体の購読に付随して無料でアクセスできるものが多かったのですが、数年前から、欧米主要出版社では自社雑誌の電子化をほぼ完成し、電子ジャーナルシステムとして有料化を進めています。

主要出版社の電子ジャーナルシステムの価格条件は出版社側が一方向的に設定しており、高騰した冊子体価格と同等程度であるなど、購読側からは納得できないものとなっていることが多くなっています。

このような状況に対して、欧米では大学等の図書館が電子ジャーナルの共同利用組織（コンソーシアム）を形成し、出版社と交渉し、より有利な条件で電子ジャーナルを利用する動きが一般的となっています。

日本においても、2000年に国立大学図書館協議会が電子ジャーナル・タスクフォースを設置し、コンソーシアムの形成を進めています。2002年度に向けては、主要5社に対して具体的交渉を行い、ある程度の条件を引き出しています。今後、タスクフォースは、学協会など更に交渉の対象を拡大する予定です。

このような状況を背景に、本学は2002年から



Elsevier社の「Science Direct」とSpringer社の「LINK」のコンソーシアムに参加しています。

(コンソーシアム参加のメリット)

- ・電子ジャーナルの価格利用条件をコンソーシアム全体で交渉することで、有利な利用条件の確保ができ、契約業務の集中化による負担軽減ができる。
- ・現状と同水準の経費で利用できる雑誌を飛躍的拡大することができる。
- ・学内のみならず、コンソーシアム全体の中で重複雑誌を調整することができ、ILL業務（文献複写など）の軽減ができる。

主なコンソーシアムには

IDEAL :

Academic Press社が提供する電子ジャーナルパッケージで176タイトルが読めます。

Synergy :

Black well社が提供する電子ジャーナルパッケージで、330タイトルが読めます。

InterScience :

Wiley社が提供する電子ジャーナルパッケージで、390タイトルが読めます。

Science Direct :

Elsevier Science社が提供する電子ジャーナルパッケージで、本学は約800タイトルが対象のコンプリートを契約しております。

Link :

Springer社が提供する電子ジャーナルパッケージで500タイトルが読めます。

研究基盤資料の整備方針について

大学の研究教育活動を支える学術情報基盤として重要な研究基盤資料を整備すべく、附属図書館では「研究基盤資料整備専門委員会」を設けて検討を行い、研究基盤資料の整備方針についての答申を行っております。(ホームページをご覧ください)



会 議

- | | |
|-------------|---|
| 学 外 | |
| 13. 9.28 | 山口県図書館協会理事会
(於：山口県立図書館) |
| 13.10.11-12 | 平成13年度国立大学図書館協議会中国四国地区協議会実務者会議
(於：オークラホテル高松)
・学外者（一般市民等）への利用サービスの充実・強化について
・図書館利用者のマナーとその対応策について等
・学外者、特に高校生の図書館利用
・改革の時代における新しい利用者サービスの創出について
・図書館利用者教育について
・ILL業務量の増大化と多様化への対応 |
| 13.11. 1 | 中国四国国立大学附属図書館事務部長会議
(於：広島大学)
・独立法人化を視野に入れた組織再編成について |
| | ・電子ジャーナルへの取り組み
・間接経費、学長裁量経費、助成団体からの外部資金への対応について
・電子ジャーナルへの対応について
・DDSの実施状況について |
| 13.11. 8 | 日本医学図書館協会中国四国部会総会
(於：ホテルハーベストイン米子) |
| 13.11. 9-10 | 図書館振興県民のつどい
(於：山口県立図書館) |
| 13.11.16 | 第1回国立大学附属図書館評価指標検討WG
(於：東京大学) |
| 13.11.28 | 第14回国立大学図書館協議会シンポジウム
(於：京都大学)
(基調講演：SCS、パーチャルロビー受信) |
| 14. 1.17 | 平成13年度国立大学附属図書館事務部長会議
(於：ホテル・キャッスル、山形市)
・大学構造改革における図書館の関わり
・民間的発想によるアウトソーシング |
| | 13.11.12 情報化関連事務組織検討G |
| | 13.11.12 貴重資料デジタル化プロジェクト |
| | 13.11.14 平成13年度第4回工学部分館図書・研究報告委員会 |
| | 13.11.19 外部評価実施委員会 |
| | 13.11.20 メディアセンターWG&企画検討委員会合同会議
・メディア基盤センターと附属図書館の連携・協力並びに将来的な一体的運営について |
| | 13.11.20 本館資料選定委員会 |
| | 13.11.26 組織・機構プロジェクト |
| | 13.12.06 外部評価実施 |
| | 13.12.10 情報化関連事務組織検討G |
| | 13.12.14 本館資料選定委員会 |
| | 13.12.19 企画検討委員会 |
| | 13.12.27 研究基盤資料整備専門委員会 |
| | 13.12.28 メディア基盤センター打合せ |
| | 14. 1.18 研究基盤資料整備専門委員会 |
| | 14. 1.21 整理マニュアルプロジェクト |
| | 14. 1.22 広報編集委員会 |
| | 14. 1.23 本館資料選定委員会 |
| | 14. 1.24 メディア基盤センター設置準備委員会 |
| | 13.11.12 情報化関連事務組織検討G |
| | 13.11.12 貴重資料デジタル化プロジェクト |
| | 13.11.14 平成13年度第4回工学部分館図書・研究報告委員会 |
| | 13.11.19 外部評価実施委員会 |
| | 13.11.20 メディアセンターWG&企画検討委員会合同会議
・メディア基盤センターと附属図書館の連携・協力並びに将来的な一体的運営について |
| | 13.11.20 本館資料選定委員会 |
| | 13.11.26 組織・機構プロジェクト |
| | 13.12.06 外部評価実施 |
| | 13.12.10 情報化関連事務組織検討G |
| | 13.12.14 本館資料選定委員会 |
| | 13.12.19 企画検討委員会 |
| | 13.12.27 研究基盤資料整備専門委員会 |
| | 13.12.28 メディア基盤センター打合せ |
| | 14. 1.18 研究基盤資料整備専門委員会 |
| | 14. 1.21 整理マニュアルプロジェクト |
| | 14. 1.22 広報編集委員会 |
| | 14. 1.23 本館資料選定委員会 |
| | 14. 1.24 メディア基盤センター設置準備委員会 |
| | 13.11.12 情報化関連事務組織検討G |
| | 13.11.12 貴重資料デジタル化プロジェクト |
| | 13.11.14 平成13年度第4回工学部分館図書・研究報告委員会 |
| | 13.11.19 外部評価実施委員会 |
| | 13.11.20 メディアセンターWG&企画検討委員会合同会議
・メディア基盤センターと附属図書館の連携・協力並びに将来的な一体的運営について |
| | 13.11.20 本館資料選定委員会 |
| | 13.11.26 組織・機構プロジェクト |
| | 13.12.06 外部評価実施 |
| | 13.12.10 情報化関連事務組織検討G |
| | 13.12.14 本館資料選定委員会 |
| | 13.12.19 企画検討委員会 |
| | 13.12.27 研究基盤資料整備専門委員会 |
| | 13.12.28 メディア基盤センター打合せ |
| | 14. 1.18 研究基盤資料整備専門委員会 |
| | 14. 1.21 整理マニュアルプロジェクト |
| | 14. 1.22 広報編集委員会 |
| | 14. 1.23 本館資料選定委員会 |
| | 14. 1.24 メディア基盤センター設置準備委員会 |

研 修

- | | | |
|----------|---|---------------------------|
| 13. 8.31 | 目録システム地域講習会（於：岡山大学）
講師：赤野徹電子情報係員 | 大学図書館」
講師：久長穰 総情センター講師 |
| 13. 9.20 | 第2回山口県大学図書館協議会実務者研修会
(於：山口大学附属図書館)
・講演会「ブロードバンド・ネットワークと | ・実務研修「ネットワークを利用した図書館サービス」 |



- | | |
|--|---|
| <p>13. 9.27 平成13年度CAT/ILLシステム説明会
(於：九州大学)
出席者：岡田隆情報サービス係長、西垣昇治
資料受入係員</p> <p>13.10. 1-5 平成13年度漢籍担当職員講習会
(於：京都大学)
受講者：藤本房枝情報サービス係長</p> <p>13.10.19 福岡県佐賀県大学図書館協議会講演
(於：九州国際大学)
講師：岡田隆情報サービス係長</p> <p>13.10.24-26 第42回中国四国地区大学図書館研究集会
(於：高知)
出席者：上田照賀専門員、守永盛志情報サービス係員(発表)、吉光紀行情報管理係長</p> | <p>(工) 杉原繁子情報サービス係員(医)</p> <p>13.10.25 Dublin Core とメタデータに関する研修
(於：学術総合センターツ橋記念講堂)
出席者：岡田隆情報サービス係長</p> <p>13.11.16 JCR利用講習会</p> <p>13.12.13 平成13年度図書館職員研修会
「国立情報学研究所の情報サービスの動向について」
講師：京藤貴 国立情報学研究所開発・事業部コンテンツ課長</p> <p>14. 1. 23 静岡県大学図書館協議会講演
(於：静岡大学)
講師：中野美智子情報管理課長</p> |
|--|---|

係名称が変わります!!

平成14年度から附属図書館の係名称が変わります。それぞれの係の名前と業務内容をお知らせします。

図書情報係(旧・資料受入係)

- ・ 図書の受入・分類・目録・支払・統計等

雑誌情報係(旧・目録情報係)

- ・ 雑誌の受入・支払等

利用者サービス係(旧・資料サービス係)

- ・ 図書館資料の閲覧・貸出・返却・製本等
- ・ 文献複写・相互貸借・図書館の利用に関すること

情報リテラシー係(旧・情報サービス係)

- ・ 情報リテラシー教育支援に関すること
- ・ 参考調査の受付・回答・参考資料の整備に関すること
- ・ オンラインジャーナル等の電子資料の利用に関すること

メディア情報係(旧・電子情報係)

- ・ 電子図書館システム、図書館の電子化に関すること
- ・ マルチメディア機器の管理・運用に関すること

人事異動

13.11. 1

配 置 換 宮田 順子 工学部分館情報管理係
(同 情報サービス係)

配 置 換 林 道子 工学部分館情報サービス係
(同 情報管理係)

編集後記

第22巻2号をお届けする。巻頭には、理学部三浦委員から最新の中国の大学図書館事情をご紹介いただいた。現在、東アジア各国図書館の情報化は急ピッチで進展している。文字コードUCS(ISO10646)と検索インターフェイス

z39.50(ISO23950)を基に、CJK(中国-日本-韓国)の各国立図書館等は東アジア図書館ネットワークの検討を開始した。東アジア情報の国際化が始まっている。(石)

山口大学附属図書館報 「Library News」
Vol.22 No.2(通巻65号) 2002年3月25日発行
<http://www.lib-c.yamaguchi-u.ac.jp/>

編集・発行 山口大学附属図書館広報編集委員会
〒753-8516 山口市吉田1677-1
TEL. (083)-933-5183 FAX. (083)-933-5186